

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通ネットワーク計画に基づく事業)

平成25年4月24日

協議会・構成員

宮城県(被災地特例)

事業名	補助対象事業者等	事業概要	①事業実施の適切性	②目標・効果達成状況	③事業の今後の改善点
陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)	(株)ミヤコーバス No.1 白石遠刈田線	白石蔵王駅 ～宮城蔵王ロイヤルホテル	A 計画通り事業は適切に実施された。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 1 1 1 1 1	利用者の非常に多い蔵王高校最寄の曲竹停留所へ上屋を設置し、待合機能向上を図る。
	(株)ミヤコーバス No.2 川崎線	大河原駅前 ～川崎	A 計画通り事業は適切に実施された。さらに、本系統を補完するものとして、川崎～村田間で柴田農林高川崎校下校に対応した系統を新設し、利便を図っている。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 1 1 1 1 1	大河原駅での列車接続の改善を検討する。
	(株)ミヤコーバス No.3 川崎線	大河原駅前 ～村田営業所	A 計画通り事業は適切に実施された。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 1 1 1 1 1	通学に合わせた運行時刻の追求。
	(株)ミヤコーバス No.4 利府線	塩釜営業所 ～しらかし台	A 平成24年11月1日、塩釜営業所移転に伴い、待合室を備えた新たな塩釜営業所起点となって、快適性が向上した。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 1 1 1 1 1	渋滞により、鉄道駅(利府駅)での定時発車ができずお客様をお待たせしているので、運行時分の検討を要する。
	(株)ミヤコーバス No.5 色麻線	古川駅前 ～色麻町役場	A 計画通り事業は適切に実施された。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 2 1 1 2 1	古川営業所の旅客設備整備に伴い、古川駅～古川営業所間の延長を平成25年4月11日に行う。また、新興商業地である穂波の郷地区の経由を検討してゆく。
	(株)ミヤコーバス No.6 石巻免許センター線	石巻駅前 ～石巻駅前	A 計画通り事業は適切に実施された。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 1 1 2 1 1	内陸部への人口移動に伴って、土地区画整理事業による住宅団地造成も計画されており、当路線の経路変更も検討してゆく。
	(株)ミヤコーバス No.7 河南線	石巻営業所 ～河南総合支所	A 計画通り事業は適切に実施された。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 3 1 1 2 1 1	蛇田地区への商業集積が進んでいることから、石巻駅～イオンモール間と一体となった運行計画を策定する。仮設住宅に配慮したルート及びバス停の再検討が必要である。
	(株)ミヤコーバス No.8 石巻専修大線	石巻駅前 ～飯野川	A 計画通り事業は適切に実施された。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 1 1 2 1 1	JR列車時刻と石巻専修大学授業時間、双方の整合性を図る。
	(株)ミヤコーバス No.9 三陸線	石巻駅前 ～飯野川	A 計画通り事業は適切に実施された。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 3 1 1 2 1 1	事業者としては、経過地点が多く時間がかかりすぎる(日赤病院・鹿又駅・上品の郷・ビッグバン)ので、運行経路を再検討したいと考えているが、それぞれの経過地点での住民ニーズがあることから調整が必要である。
	(株)ミヤコーバス No.10 鮎川線	石巻駅前 ～鮎川港	A 計画通り事業は適切に実施された。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 1 1 2 2 1	東日本大震災以降沿線人口が減少していることから、本路線の将来像の中期的な検討が必要であるが、検討にあたっては地域に与える影響を十分に考慮することが必要である。
	(株)ミヤコーバス No.11 女川線	石巻駅前 ～女川日水前	A 東日本大震災により、石巻駅前～女川総合運動公園間の運行となっている。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 2 1 1 3 1	沿線に東日本大震災被災地を多く抱え、内陸部への集団移転や土地区画整理も動き始めているので、これらと密接に連携しながら路線の見直しを不断に検討してゆく。
	(株)ミヤコーバス No.12 三陸線	津谷 ～気仙沼	A 東日本大震災により、津谷～河原田間の運行となっている。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 1 2 1 3 1	並行するJR気仙沼線がBRT化されたことに伴い、バス同士の競合となって当路線との競合性が増しているため、震災特例終了後の路線維持について、検討を開始することが必要。
	(株)ミヤコーバス No.13 御崎線	気仙沼 ～御崎	A 東日本大震災により、市立病院入口～御崎間の運行となっている。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 1 2 1 1 1	東日本大震災により沿線人口が減少しており、復興住宅の設置等利用動向を見極めながら、対応してゆくことが必要。
有限会社はらまち旅行 No.1 仙台南相馬線	仙台 ～南相馬	A 計画通り事業は適切に実施された。	A ルート ダイヤ 整合性 バス競合 鉄道競合 住民理解 1 1 1 3 3 2	トイレ休憩の設定、仙台駅西口バス停の位置等、さらなる利便性の向上にむけての検討が必要。	

事業名	補助対象事業者等	事業概要	①事業実施の適切性	②目標・効果達成状況	③事業の今後の改善点
記載要領	<p>【事業者名及び系統名・航(空)路名・施設名等を記載】</p> <p>※評価は運行系統、離島航(空)路、施設等の別ごとに実施すること</p>	<p>【運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両原価償却費等国庫補助金の交付を受けている場合は、その旨を記載)】</p>	<p>A 【計画に位置付けられた事業が適切に実施された(されている)】</p> <p>B かを記載。計画どおり実施されなかった(されていない)場合には、</p> <p>C 理由等記載】</p> <p>評価 記載例①: 計画どおり事業は適切に実施された。</p> <p>記載例②: 災害により運航できない期間があったが、事業は概ね適切に実施された。</p>	<p>A 【計画に記載した定量的な目標数値と結果を記載する。結果が目標を達成できなかった場合は理由等を分析の上記載】</p> <p>B</p> <p>C 記載例①(確保維持事業): 目標30人/日に対して、15人/日であった。(目標を下回った理由等を併せて記載)</p> <p>評価 記載例②(改善事業): 年間利用者1,000人の利便性の向上が図れた。</p> <p>【定量目標を設定していない場合はアセスメント評価】</p> <p>・ルート・ダイヤ・整合性・バス競合・鉄道等競合・住民理解</p> <p>1 非常によい</p> <p>2 概ね良い</p> <p>3 改善の余地がある</p> <p>4 改善の余地が多いにある</p> <p>▲アセスメント不能</p>	<p>【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載(改善点は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載すること)】</p> <p>※ なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨を記載</p>

【各評価項目の評価基準】

①事業実施の適切性

- A…事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(されている)。
- B…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(一部実施されない見込み)。
- C…事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(実施されない見込み)。

②目標・効果達成状況

- A…事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)。
- B…事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)。
- C…事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)。

- ルート 運行ルートやバス停の位置
- ダイヤ 運行ダイヤ
- 整合性 コミュニティバス等地域交通政策との整合性
- バス競合 他の乗合バス路線との競合回避努力
- 鉄道競合 鉄軌道との競合回避努力
- 住民理解 沿線住民の認識・理解